

輝人

徳永農園 代表
徳永 紘一 さん



農業で
誰かの役に立ちたい



「そだてる あにまる ベジタぶる」
自分たちが作った野菜を動物たちが
食べる様子を熱心に見つめる参加者
の皆さん

さまざまな仕事を経てたどり着いたのが農業。徳永農園を立ち上げて7年が経ちますが、当初から一貫して農薬や化学肥料を使用せずに、珍しい野菜を中心に40種類ほどの野菜を育てています。

毎年同じ育て方をしていても気候によって育ち方も変わるので、調整が難しく、試行錯誤の連続です。何度も失敗しているからこそ、種を蒔いて芽が出たときや実をつけるとき、そして収穫できるとき、どの成長段階を見ても嬉しくて、毎回感動しています。

農業を始めてから、多くの人に支えられ、たくさんの縁ができて、徳永農園の野菜を楽しみに待たれてくれている人も増えてきました。

何か農業で新しいことができなにかなと考えていた時、縁あって動物園と一緒に「そだてる あに

まる ベジタぶる」というイベントを企画しました。親子を対象に、種から野菜を育て、収穫した野菜を自分たちだけでなく、動物にも食べてもらうというものです。種蒔きから始めて、水やりや草取り、収穫、途中でイノシシの被害や雨などで収穫できないものもあったりと、野菜ができるまでの過程を体験してもらいました。初めての試みでしたが、収穫した野菜を皆さん「おいしい」と嬉しそうに食べてくれたことが印象的でした。

この体験が、普段食べる食事や野菜のことを考えてもらうきっかけになってくれると嬉しいです。

野菜を育てる楽しさを教えてくれた農業を通して、これからも誰かを元気づけたり、役立つような取り組みをしていけたらと考えています。

押し花文化 のふるさと・おおむた

あきびより

作品名 秋日和

作者 伊豫 明子

今年は、全国的にも梅雨入りが遅く、その後大雨が各地に降り、農作物にも影響を及ぼしました。そして猛威をふるった台風。

私たちは、自然界からたくさんの恩恵を受けると同時に、ときに厳しい試練を与られます。

災害に苦しむ地域の一日も早い復興を願います。



大牟田押花の会

編集後記

▼まちかどレポートでも紹介しているご当地キャラまつりにジャーフ坊と行ってきました！ジャーフ坊、そして私にとっても初めての高知県。9月とは思えない暑さでしたが、会場は多くの来場者でにぎわ

いました▼ジャーフ坊の公式SNSで現地の様子をお届けしています。が、10月20日に石炭館で開催の「ジャーフ坊とあそぼう」でも写真パネルを展示予定です。皆さんぜひ遊びに来てください(理)